

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里(1Fこもれび)		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年9月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ、尊厳ある暮らし」の理念を念頭に入れ、ご入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう関り笑いのある暮らしを展開しています。機能の低下があっても自分らしい暮らしを継続しています。コロナ禍で難しい場面もありますが、積極的に地域の一員として関りを持つ姿勢は変わらず、春の山菜や収穫した野菜を届けて下さったりと現在は出来ることを考えながらできる限りの交流を継続しています。ホーム建物内には、高齢者住宅も併設されており、入居者はもとより介護関係者の皆様との交流も活発です。また近隣に系列のグループホームも運営しており、職員の人事交流等で協力体制も構築しております。いつもたくさんの地域の方々温かく見守られながら普通に暮らしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいずみの里」は、バス停から近い静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所であり、建物3階に同法人の高齢者共同住宅が併設している。周辺には商店や小学校などがあり利便性に恵まれている。利用者は地域のお祭りやコンサートに参加したり、近隣商店で買い物などをして日常的に地域住民と触れ合っている。また小学校の児童に学習体験の場として事業所を提供している。2020年の新型コロナウイルス感染の流行から外部者との交流は難しくなっているが、感染防止を徹底して家族と本人が会えるように配慮している。今年に新しく交代した管理者は前職を活かしなが運営を継続し、新たな視点で職員と一緒に地域に根差した温かなホームづくりを熱心に進めている。近くにある法人事務所のバックアップもある。事業所を地域資源の一つとして考える法人方針に沿って管理者と職員は感染症流行の収束後には、利用者の当たり前の暮らしを大切に外出や住民との交流を再開したいと考えている。現在は事業所内で本人の意向を引き出して趣味などを創作活動に活かしたり、季節のイベントで楽しい場面づくりを工夫している。職員は日々のケアや研修で学びを深めており、介護計画の見直しに参加して利用者の思いを聞き取り対応している。家庭的で明るく温もりのある雰囲気は家族にも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬うこころ 尊厳ある暮らし」 理念に基づいてご利用者に関わっている。ユニット居間に掲示し実践に繋げている。	法人理念を軸に5項目の具体的な内容があり、4項目に地域との関係を盛り込み要所に掲示している。ユニット会議で理念をテーマに取り上げて話し合い、職員が理念を意識して利用者へ接することができるよう共有化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は、ホーム周辺を散歩したり近くの商店や理髪店などで日常的にお付き合いをさせて頂いていた。また町内会行事に参加したりしていた。現在は近隣住民の野菜の差し入れなどあり交流を行っている。	新型コロナウイルス感染の流行から外部者と交流する場面は難しいが、今までの地域との関係づくりで野菜などの提供を受けることが多い。その際に利用者も「とうもろこし」の皮をむきながら意識できるように近隣住民のことを話題にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の催しに参加することでご入居者への関りや支援方法を見ていただいていたが、現在は相談などを電話で対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告を議題にのせ話し合いを行っていたが現在は書面会議として報告を行っている。	運営推進会議は2020年度より書面で行っている。感染症防止対策、家族面会の対応、事業所内の行事など、その時に必要な取り組み内容を報告している。感染症流行の収束後には、前回の課題も検討して会議の再開を考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居・事故等の報告など行ったり、感染予防の助言や指示をいただいている。	運営や制度に関することは、法人事務が窓口になっている。管理者は主に電話で介護保険課や生活保護課の担当者に利用料など不明なことがあれば確認している。市などの情報も参考に新型コロナウイルス感染防止対応を感染マニュアルに追加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束適正委員会を開催し、全職員にスピーチロックなど言葉かけの問題点を話し合ったり研修も行っている。	委員会の後に年2回の研修会を行うこともあり、その際に全職員も会議に参加している。参加が難しい時は議事録などで内容を把握している。研修では法人マニュアルや資料を用いて、具体的な禁止行為を確認したり、事例をもとに利用者の言動を抑制しない方法を話し合い学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時にマニュアルの読み合わせを行っている。また全職員に定期的に虐待について学ぶ機会をもうけ話し合い持つことで予防に繋げている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用しているご利用者がいっしょに、後見人の方と情報共有を行っている。またご家族に必要性にあった情報提供も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時に疑問点やご希望等を伺いながら心配事や不安を解消を図っている。また契約時は時間を掛けて説明し理解いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意向を伺いながら、体調や生活の様子等を説明しご本人を中心とした話し合いを定期的に行っている。現在は電話で行っている。	家族の来訪は予約で調整している。手製のパーテーション設置などで感染防止を徹底し、玄関内で本人とも会えるよう配慮している。毎月写真入りの通信を送っているが、メッセージ欄に一言を添えて本人の様子を伝えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り・個人面談で意見を表せる場を設け意見を集約し運営に反映させている。	リスク管理も含めて業務の流れを作成し、ユニット会議で意見を交換している。カンファレンスでケアや介護計画の確認、また研修を行い日々のケアにつなげている。職員面談では個別の事情に沿って話し合い、働きやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続の節目ごとに表彰と報酬金を付与、資格取得者には手当などでモチベーションを図り、知識や技術・経験に磨きをかけ働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修の参加や自ら希望した場合でも受講の機会があり働きながらスキルアップが図れる対応をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し連絡会の参加や情報交換ができる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には不安や困りごとの有無、望まれる暮らし伺い安心していただけるよう丁寧に関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階でセンター方式のアセスメントへの記入をご家族様へ依頼し要望の有無を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談にはケアマネージャーが面談ししっかりとアセスメントを行い初期プランを立案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならないような言葉かけで職員と一緒に家事活動を行い、貴重なお話と知恵をいただきながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者が出来ること、喜んでいただけること等をお伝えし共に暮らしを支えるよう努めながら、現在は電話で話しあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・家族間へ暑中見舞いのハガキを職員と一緒に作成し投函したり、お孫様との文通のお手伝いも行っている。	感染症流行のため友人や知人の来訪は無いが、電話で交流を続けている利用者もいる。家族や親族とのお便り交換は利用者の楽しみになっている。趣味や楽しみごとを創作活動やレクリエーション活動に取り入れて継続できるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつ時、アクティビティや団らん時も職員も加わり楽しい時間をすごしている。また食席や過ごされる場所に配慮し環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供や関係機関に繋いだりフォローや支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で希望や意向を伺い、関りの中で表情や仕草からも把握している。ケアマネージャーがカンファレンスのなかで集約し情報共有している。	会話や日々の様子から希望を引き出し、自分で決められるように声かけを工夫している。センター方式のシート(B-3)を活用し、趣味、嗜好、暮らしの習慣などを詳細に記録して計画につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し把握に努めている。関係機関やご家族からも情報提供いただいて把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方から状態の変化まで観察し記録に残している。連絡ノートを活用や申し送りで情報共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントシートの活用や定期的なカンファレンスにおいて意見交換しご本人・ご家族の意向を取り入れ自分らしく暮らしていけるよう計画を立てている。	計画作成担当者が情報を収集し、アセスメント表、モニタリング表をもとに会議で話し合い、6か月ごとに介護計画を作成している。日々の生活記録では、支援内容で実施できなかった変化なども記載し次の見直しにつなげたいと考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関りでの気づきや様子を記録し様子や問題点を共有しながら実践につなげている。必要に応じて見直しも行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に合わせて通院の付き添いや衣類の補充・購入の支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域交流はできていないが近所の様子や野菜の差し入れなどを受け、小さな話題でもお伝えし地域資源に触れる機会にしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。家族の希望も伝えながら関係性を築いている。また薬剤師の薬管理や指導・助言も受けながら連携している。	他科受診時は事業所で対応し、結果を家族に報告している。看護職員との健康ノートで情報交換を行い、内科医の訪問診療を受けている。受診記録は個人ごとに往診、通院の経過が分かりやすく整備されている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で一人一人の全身状態の変化を記した健康管理記録で相談・助言を受け連携している。急な体調不良時も電話で指示を受けたり365日24時間対応し体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう基本情報・介護添書の提供を行いご家族と見守っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームでの対応範囲を説明し、契約時には確認書を取りかわし同意を得ている。	利用開始時に重度化対応や看取り方針の具体的な内容を文章で説明し、看取りを行っていないことも伝えている。状態の変化から意向を再確認し関係者で方針を共有している。調理方法や栄養ドリンクなどを工夫して可能な限り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使用し事故発生時に備えている。看護師への連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍前は夜間想定避難訓練を実施していた。消防署と相談しながら、防災点検時、消火訓練を行う予定になっている。	避難訓練は未実施であるが消防署や本部と訓練方法を検討しているところである。火災以外の地震などの訓練も課題になっている。感染症流行の収束後には住民の参加も得て訓練を行い、また職員の「普通救命講習」の受講を考えている。	避難誘導など事業所内、または建物内で必要な訓練を想定して自主訓練の実施に期待したい。また地震を想定した事業所内の危険箇所の確認や利用者ごとにケア別の対応を話し合い、記録で共有できる工夫に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の呼びかけについては、入居時にご家族にお聞きし希望通りに呼んでいる。また尊厳を大事にした言葉かけを行っている。	接遇やスピーチロックに関する内部研修を行っている。申し送りなどを行う際は、イニシャルを使用したリ別室で行う事でプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせて質問の仕方などを変えたり決めやすいように二者択一で質問したり自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせて過ごせるよう、強引な誘導は行わずできる限り希望に沿いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。一人ひとりの洋服の好みを把握し一緒に更衣のお手伝いを必要に応じて行っている。お化粧品のお手伝いも行っている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて献立を工夫したり、食器拭きなどを入居者と行っている。	家庭と同じように当日の食材状況を見て献立を決めている。イベントに合わせ寿司、蕎麦など利用者希望の出前やお弁当を楽しんでいる。利用者も調理に参加し、どら焼きなどのおやつ作りもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し職員間で共有している。医師や看護師へ報告、指導のもと、嚥下状態に合わせた食事形態で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じて歯科医の指導、治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し自立に向けた声掛けや誘導を行っている。ご入居者の状態によっては時間誘導も実施している。状態に合わせた下着や衛生用品の検討をしながらトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	日中は全員がトイレを使用している。個人ごとに生活記録シートの排泄欄に記録をしている。一人ひとりの状態に合わせた排泄用品の使用や声かけ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や飲むヨーグルトを提供している。繊維質の多い食材を取り入れ水分量を常に把握している。体操など体を動かす機会を作り排便につながる支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回入浴できるよう声をかけている。拒否があるときは言葉かけを工夫したり時間を配慮したり対応している。ゆっくり湯につかり入浴を楽しんで入れるよう努めている。	午後の時間帯を中心に入浴支援を行っている。利用者の希望や状況に応じてシャワー浴の場合もある。午前と午後でお湯の交換を行い、入浴剤の利用や職員とのコミュニケーションも利用者の入浴時の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせてソファやリクライニングなどで休息できるよう配慮している。昼夜逆転しないよう足浴や体操で夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理で薬剤師と連携し保管・管理を行っている。服薬時マニュアルに沿って事故がないよう努め、薬剤情報書を活用し個々の服用内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意なことを把握し、ちぎり絵や塗り絵、家事活動に参加しホームでの生活が充実したものになるよう支援している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はホーム玄関前の花を観賞し季節を感じたり、コロナ禍で頻度は少ないがドライブで車窓からも季節を感じている。	ドライブで円山公園や大通公園、江別方面などに行き、車窓から桜などの景色を楽しんでいる。玄関前の花の手入れや観賞で外気に触れる機会を作っている。感染症の流行状況に応じて、日常的な食材の買い物や畑作業などを再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面に配慮し金銭管理はご家族・ホーム対応になっている。ご本人が少額を持つことで安心される場合、所持することは可能になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持が可能でありご家族と電話できるよう支援している。またハガキを出す支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に季節を感じられる飾りつけを行っている。安心して暮らせるよう環境整備にも配慮し事故予防に努め居心地よく過ごせるよう努めている。	明るく広々とした居間には観葉植物や利用者作成の貼り絵や季節に合わせた装飾があり、温かみを感じられる。居間から外れた場所にも椅子を設置し、利用者が好きところで過ごすことができる。室温等も管理されており、安心して快適に過ごすことのできる共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた場所やご入居者同士の談笑やテレビ鑑賞がゆっくりできるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、人形等を置き安心して過ごせる居室に工夫している。	好みのぬいぐるみや花を飾っている利用者やテレビ、冷蔵庫や使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んでいる利用者もいる。壁面には家族の写真や職員手作りの誕生日、クリスマス、母の日などのイベントのカードが飾られており、温かみを感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかるよう表示したり、事故防止に配慮した環境整備で生活できるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里(2Fそよかぜ)		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和3年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ、尊厳ある暮らし」の理念を念頭に入れ、ご入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう笑いのある暮らしを展開しています。機能の低下があっても自分らしい暮らしを継続しています。コロナ禍で難しい場面もありますが、積極的に地域の一人として関わりを持つ姿勢は変わらず、春の山菜や収穫した野菜を届けて下さったりと現在は出来ることを考えながらできる限りの交流を継続しています。ホーム建物内には、高齢者住宅も併設されており、入居者はもとより介護関係者の皆様との交流も活発です。また近隣に系列のグループホームも運営しており、職員の人事交流等で協力体制も構築しております。いつもたくさんの地域の方々温かく見守られながら普通に暮らしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170502389-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年9月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット入口に理念である「敬うこころ 尊厳ある暮らし」を掲示している。職員は理念に沿ってご入居者に関わるよう意識関わっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町内会行事に積極的に参加していたがコロナ禍の現在は自粛している。野菜の差し入れ等、感染予防に配慮した範囲での交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等あった場合、電話で対応したり、活動の様子を地域の方に職員から伝えたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告を議題にのせ話し合いを行っていたが現在は書面会議として報告を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居・事故等の報告を行うほか、不明な点は助言、指示を頂きながら関係性を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉かけもふくめ拘束に該当しないか話し合い確認し職員の周知を図りケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りや日常気が付いた際にケアの確認を行い職員間で話し合い防止に努めている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者がいるため情報をいただいたり、必要性に応じてご家族に情報提供も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時、普段の入居者の生活を伝えたり、希望や困りごとをしっかりと聞き取り、不安を解消できるよう丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意向を伺いながら、体調や生活の様子等を説明しご本人を中心とした話し合いを定期的に行っている。現在は電話でやり取りしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やカンファレンスで話し合いの場を設け意見を出し合い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続の節目には表彰と報酬金を付与、資格取得者には手当を付与している。個人面談の場を設け各自向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に合った研修の参加や自ら希望した場合でも受講の機会があり働きながらスキルアップが図れるよう対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し連絡会の参加や情報交換ができる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の初めからご本人の希望、不安など聞き取り安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートへの記入をお願いしこれまでの生活様式や不安なことなどを話し合いご本人の望む生活ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする社会資源やサービスなどに繋げる橋渡しなどを行いご本人・ご家族が希望される生活ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何ができるのか見極めその方に合ったものを見つけ楽しく笑いのある生活を過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護力を学びながらご入居者とご家族の絆を大切にしながら支えていく関係性づくりを目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との交流や関係が途切れることなく、できる限りの感染対策を行いながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	目配り・気配り・心配りを怠らず、一人一人のペースやリズムに合わせて孤立したり浮いたりしないようお互いの関係性を深めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもこちらから近況を尋ねたり家族からの相談にも乗っている。継続してお付き合いができるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望に関心を寄せるように関わっている。困難な場合は表情や仕草、日々の関りの中で把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係者、ご家族からの情報だけではなくご入居者本人との関わりの中から情報を共有し暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方からできること、わかることや体調などを把握し周囲との調和を図りながら安心できる生活になるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を用いてアセスメントを行っている。ケアマネジャーを中心にカンファレンスを開催しモニタリングを行い話し合いプランに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、ケアの実践を個別の生活記録に記入し連絡ノートや申し送りで情報共有を図りながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた受診外出など必要に応じたサービスを行っている。個々の満足が得られるよう柔軟に対応し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域交流はできていないが近隣住民の差し入れを受けたり、近所の様子や些細な事でも話題にしご入居者にお伝えすることで地域資源に触れる機会にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。家族やご本人の希望も伝えながら受診状況は個別に記録している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や協力医療機関の医師との連携でスムーズに相談できる体制が出来ている。適切な受診や看護が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は基本情報や看護添書等で情報を提供、ご入居者が安心して治療が受けられるよう支援し早期退院ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時にホームでの対応範囲を説明し、契約時には確認書を取り交わし同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使用し事故発生時に備えている。看護師への連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍前は夜間想定避難訓練を実施していた。消防署と相談しながら、防災点検時、消火訓練を行う予定になっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライドを傷つけないよう思いやりを持って接するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ることは行って頂き、得意なことを見つけて自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を優先するのではなく、個々のペースに合わせてトイレや食事の声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容の導入している。身だしなみ、おしゃれの好みを把握し支援している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスを考えながら調理し家庭の雰囲気を楽しみながら食事ができるよう支援している。旬の食材の下ごしらえで季節を感じ取っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に合わせた食事・水分を医師や看護師の指示により提供し嚥下状態に合わせた食事形態も対応している。習慣に応じた献立にも工夫し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後にセルフケアでの歯磨きの声掛けや促しで実施している。必要に応じては、訪問歯科の口腔ケアも依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声掛けや誘導で自立した排泄の維持に努め生活記録に記入して情報の共有を図っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・水分、繊維質の多い食材、ヨーグルト等を提供している。また運動の促しも行いながら、困難な場合は医師に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて声掛けを行い週2～3回入っていただけるよう支援している。入浴中はコミュニケーションを図りながら昔話や鼻歌でゆっくりとつるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせ、ソファやベット、リビングで休息している。夜間の安眠につながるよう足浴も実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理で薬剤師と連携し保管・管理を行っている。服薬時マニュアルに沿って事故がないよう努め、薬剤情報書を活用し個々の服用内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の個性、性格、得意、趣味等に合わせ楽しく過ごせるよう支援している。行事やアクティビティで気分転換を図っている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外出がままならない状況の中、季節ごとのドライブを行い四季折々の風景を車窓から楽しんでいる。またガーデニング等、感染を対策して行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品や消耗品・医療費等の支払いは預り金としてホームで管理しており欲しいものがあるときは使えるよう支援している。希望があれば、お金を所持したり使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話取次の際、椅子を用意し安全に交流できるようにしており手紙や年賀状の取次支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に行事写真を季節ごとにご入居者と一緒に飾り付けを行っている。また塗り絵や点つなぎ、書初め等展示している。落ち着いた空間になるように配慮し照明などの調整も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子・ソファの配置を工夫し気の合う方や一人で過ごしたいときに使えるよう椅子を置い足り居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族と相談しながら使い慣れた馴染みの家具、愛着のある調度品を持参して頂き居心地よく生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活動作を把握し手すりや家具の配置を工夫し、安全な移動動線の環境づくりに努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームいずみの里

作成日：令和 3年 9月 16日

市町村受理日：令和 3年 9月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災避難訓練が未実施である。また火災以外の地震などの訓練も課題になっている。	事業所内、建物内で必要な訓練を想定した避難訓練の実施を行い防災意識を高める。	消防署や本部と訓練方法を検討し避難訓練を実施する。地震を想定した事業所内の危険な箇所の確認やケア別の対応など具体的な方法を会議で十分に話し合い取り組む。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。